

## グライコプロテオミクスープロテオミクスに続く次世代プロジェクト

### Glycoproteomics –The next project following proteomics

掛樋 一晃<sup>1</sup>, 平林 淳<sup>2</sup>(<sup>1</sup>近畿大学・薬学部,<sup>2</sup>産業総合研究所・糖鎖工学センター)

ヒトのゲノム解析が終了し、タンパク質構造解析が国家プロジェクトとして進行しつつある。周知のように、タンパク質は厳密に遺伝子に支配されて生合成されるが、翻訳後修飾によりタンパク質に結合する糖鎖は遺伝子の解析だけでは解釈できない側面を持っている。それゆえ、翻訳後にタンパク質が糖鎖により修飾される理由について古くから多くの研究が行われてきたが未解明の分野が多く残されている。一方、糖鎖は生命機能の微妙な調節を担っていると考えられ、生命化学の領域において挑戦すべき課題は多い。幸い日本はこの分野において世界をリードする成果を上げている。本シンポジウムでは糖鎖に焦点を当てて、この分野で目覚ましい成果を上げておられる先生方に、創薬（医薬品開発）とグライコミクスという視点から一連のトピックスを紹介するシンポジウムを企画した。

シンポジウムの前半では主として分析化学上のトピックとして糖鎖の分析の観点から、糖鎖とタンパク質の相互作用、糖鎖の質量分析および糖鎖の迅速分析に関する話題が3演題提供される。後半ではバイオロジーの観点を加味して、グリコサミノグリカン、糖鎖結合性タンパク質および糖鎖転移酵素に関して創薬の観点を加味して3演題提供される。